

やはり今日も、言葉の魔術にかかってしまった。
いつまでも聞いていたいと思った。
人に出会うことがチャンスだとすれば、私はまた今日も、自分を奮い立たせるチャンスをいただいたような気がする。

まず、自己開示をしてくださったことはとても興味深く、魔術にかかった。
小学校のお話の時間の話は、私もまっすぐに手を上げられなかったので、とても親近感を覚えた。樋口恵子さんが、とても近くに感じられた。

落語の間のとり方、なるほどと思った。
中学の頃、落語をよく読んだ。私の場合、話のおもしろさに興味を持ったのだが、落語を聞くことで話の間のとり方を身につけるというのも、私にとっては斬新的な事であった。

なによりも意外だと思ったのは、樋口恵子さんでさえコンプレックスをもつ事があったと言うことだった。切れ味よく話し、聞いている方もなんだかスカッと心が晴れるような話しぶりで、何も恐いものなどないのだろうと置いていたが、そうではなかった。
その意外性に、ますます親密感を勝手に持ってしまふ。
私でも世の中が変えられるのではないかと錯覚してしまいそうになった。

「時代の変化に、どのような言葉を与えるか・・・
時代から、事実にとばがない。
時代が言葉を創り、事実言葉を与えている。
新しい言葉の背景にある真実を、わかりやすい言葉で」

いちばん魔術にかかった瞬間だった。
目からウロコがおちるといふのは、こういう瞬間なのかもしれない。

言葉は、時代が創っていくものなのだ。
真実を伝える手段として、言葉はあるのだ。
ならば、不適切に使ったり、表現を誤ったりすると真実は伝わらない。
意図しない方向に、伝わってしまう怖さもある。

言葉の持つ本当の意味、最近少しずつこの授業を通して自分なりに理解しようとしている。
今一つだけ自分なりに理解を深め用としている「介護」には、悲壮感のイメージがつきまわっていたが、最近「恋するように」という形容詞がつくのもステキだと思える。
だれもが、「介護」の暗いイメージを脱却して、だれもが日常的に自分のできることから始められる「介護」を真実としてつたえられる社会にしたい。
自由で不安のない時間が確保できる「介護」が、真実となることに少しでも近づけたら、「しあわせ」の言葉の意味も変わってくるのかもしれない。

「気がついた人が先に立ち、多数派をつくること」、そんな美しい人に私も近づきたいと思っている。